

学校の建て替えに130億円

年度区分	更新費用	3月議会の代表質問では、櫻井市長がマニフェストで掲げた「学校施設の計画的な改修」を取り上げました。左の表は、2014年3月に作られた亀山市公共施設白書から作成したもので、学校教育系施設の更新時期別の更新費用です。これによれば、2020年度までに更新時期を迎えた施設の更新費用が38億円で、さらに2021年度以降の10年間で91億円必要になり、合わせれば129億円にもなります。
～2020年度	38億円	
2021～2025年度	33億円	
2026～2030年度	58億円	

新庁舎建設とゴミ処理施設の更新も

また2026年度以降には、2026年と27年に新庁舎建設が予定され、さらにゴミ処理施設(溶融炉一写真)も2029年度末まで稼働予定なのでこの時期に更新することになります。



つまり、2026年から30年までの5年間に、各種施設の更新時期が集中し、学校関係で58億円、新庁舎建設で数十億円、ゴミ焼却施設でさらに数十億円がかかることになり、とてもすべてできません。

再開発事業を優先 学校の建て替えは後回しに

亀山市は亀山駅周辺整備事業に多額の費用をつぎ込み、リニア駅誘致の予算も優先しています(リニア基金は18億円)。こうした大型事業優先の施策により後回しにされているのが老朽化した学校の建て替えです。

櫻井市長に学校施設の改修の計画を質しましたが、「計画はこれから」という答弁でした。櫻井市長の任期は4年しかないのに、これから計画を立てては任期中に完成しません。大型事業優先の姿勢を改めるべきです。

コロナ対策に4億円 市独自は6千万円だけ

市のコロナ対策は4億円一ところがその多くがワクチン接種など国からの補助金などで、市独自で実施する事業費は3千万円の起債を含めて約6千万円しかありません。コロナ禍で困難に直面している業者や市民への支援は早く、手厚くと求められており、それに応えた市独自の事業を早急に打ち出すべきです。

この議会報告は毎月月初めに発行しています

好きです 亀山 住みよい街に

2021年 4月 4日 発行 No. 262

こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員 服部 孝規

〒519-0156 亀山市南野町6-19-1

ご意見、ご感想は 電話、FAX 0595-82-3646

E-mail kouki.giin@gmail.com 市議団ホームページ 「共産党 亀山」で検索を

新たに給食センターを建設

亀中・中部中の給食を完全給食に

市民の力とまとまった時の議会の力のすごさを示した中学校給食実現への動き。じゃがまる会が9千筆を超える署名を集め、議会が請願を全会一致で採択。今回の教育委員会の方針は、こうした動きを受けてのものだ。



さて、3月24日に教育委員会が「学校給食に関する今後の方向性」を決定しました。内容は亀中、中部中で全員喫食制給食(いわゆる完全給食)実施の早期実現のため、「センター方式の給食調理施設を建設する」としています。また「小学校及び関学校給食センター(関中、関小、加太小へ配送)

の学校給食は、現行の提供方式を継続」としています。

小学校給食は自校方式を堅持する

次に「中長期的な視点から」として、「小学校給食は自校方式を原則」とすることや関学校給食センターは、改修時期(2039年)を想定したうえで、関小の自校給食施設に改修し、加太小は敷地内に給食室を設置し、関中は建設予定の「亀中と中部中の給食センター」から提供を受けることが考えられるとしています。

今後、市総合計画後期基本計画策定時に実施時期を決定するとしています。

議会が決議 「第一次実施計画に位置づけよ」

この方向性で評価できるのは、「小学校給食は自校方式を堅持」することです。ただ、亀中、中部中に自校方式の給食を求めていたのでセンター方式の問題点などを質していかなければなりません。

3月議会最終日に、総合計画後期基本計画の第一次実施計画(2022年度から3年間)に位置づけるよう求める決議を全会一致で可決しました。

リニア駅候補地の調査 コンサルに委託

新年度予算には、「リニア中間駅を生かしたまちづくりの可能性を調査するための委託料」1,760万円が計上されました。この調査は2カ年で令和3年度が792万円で、令和4年度は債務負担行為限度額968万円の合計1,760万円となっています。(注)債務負担行為とは、翌年度以降の支払いをあらかじめ約束する予算の先取り。

調査の主な内容は、①市内停車駅候補地エリアの調査、検討、②リニア駅を生かしたまちづくりビジョン等の調査、検討などです。

駅位置が決まっていないうちにランドデザイン

私の質疑の主なやりとりは以下の通り。

問い:この委託料で候補地を選定するが、それは1箇所だけなのか、複数の候補地を選定するのか。

答弁:候補地の数やそのエリア形状等については、新年度に実施する可能性調査の中で取りまとめていきたい。

問い:2年目にランドデザインをされるというが、ランドデザインっていったいどんなことなのか。

答弁:例えばそこで土地利用をどのようにしていくかとか、他のいろんな中心的都市拠点とどんなネットワークをしていくかを総合的に調査する内容。

問い:駅位置が決まっていないうちで果たして、1,760万円もかけて、ランドデザインを描くというのは妥当なのかどうか。場所が違ったら無駄になる。

答弁:ランドデザインまではちょっと行き過ぎではないかということだが、本市としては、その(調査)結果に基づいて、初めて具体的な検討がなされるということですので、そういった調査費を盛らせていただいた(意味不明の答弁)。

まちづくりと言いながら市民参画はない

問い:市長は常に市民力、地域力と言われる。まちづくりをするのなら、市民をどう参画させるのかという話が第一に来るべき。

市長の答弁:行政として今何をしていくのか、これを優先させていただいて今回の調査、これは重要だという認識で予算としてご提案した。

以上が質疑と答弁の概要ですが、詳しく聞けば聞くほど問題の多い委託料です。特に駅位置が決まってない段階でのランドデザインは、駅位置が違えば無駄な費用です。まちづくりをコンサル任せというのも問題です。

名誉市民の誕生日に毎年4万円の「祝い花」

3月議会の予算決算委員会で、名誉市民の中村晋也氏に対する市長の交際費支出を質しました。市のHPにアップされた「市長の交際費の支出状況」によると、毎年7月に名誉市民の中村晋也氏の「お誕生を祝う会」に、4万円程度の「祝い花」を送っています。平成22年度から令和2年度(令和3年2月まで)の11年間に、中村晋也氏に関するものが770,029円支出され、そのうち「お誕生を祝う会」の「祝い花」に平成25年度から8年間で281,705円(1回43,200円というのが最も多い)を支出しています。

訪問時の手みやげに11年間で50万円近く支出



そのほかに訪問時や面談時などの手土産として11年間で488,324円を支出しています。名誉市民に礼を持って接することは必要ですが、ここまでくると行き過ぎと言わざるを得ません。市は高齢者に対しては最高齢者と白寿(99歳)と米寿(88歳)の方のみ記念品等を贈っています。

この問題は、新図書館の郷土資料コーナー(写真)での中村氏の作品を展示することと結びついています。市の中村氏への接し方がよくわかる出来事です。

今回の支出が行き過ぎているというのは、市民の率直な感想です。

4月から小、中学校の全学級で35人学級に

文部科学省は40年ぶりに、公立小学校の1学級当たりの上限人数を40人から35人に見直しをし、現在、小1のみ35人であったのを新年度に小2を35人とし、その後学年ごとに順次引き下げ、2025年度に全学年を35人とします(写真は神辺小学校)。



市単独の「少人数教育推進教員」を配置

亀山市ではこれに先んじて、新年度から小学校、中学校の全学年で35人学級を実施する予定です。1学級35人を超える過密学級が10クラスほど出るところを市単独の「少人数教育推進教員」を配置し、すべての学年、学級で35人学級を実現します。大変評価できるものです。